

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	有限会社カヤノ物流 倉庫棟	階数	地下0階地上1階
建設地	愛知県丹羽郡大口町秋田一丁目3-1, 4-1, 5-1, 6-1, 7, 8, 9, 10	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	3人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,000時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2022年8月 予定	評価の実施日	2021年10月12日
敷地面積	7,562 m ²	作成者	関山 太一
建築面積	3,927 m ²	確認日	2021年10月12日
延床面積	4,004 m ²	確認者	関山 太一



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

★ ★ ★ ★ ★ ☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★ ★ ★ ★ ☆ ☆

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	69%
③上記+②以外の	69%
④上記+	69%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.7

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.7

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

3 重点項目

①地球温暖化への配慮

4.2

③敷地内の緑化

2.0

外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	11.0 %
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %

②資源の有効活用

3.1

④地域材の活用

1.0

<外装材に使用した地域性のある材料>

なし

<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>

なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
		評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質										2.9
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1	室内騒音レベル			3.0	-	-	-	-	-	-
1.2	遮音			-	-	-	-	-	-	-
1	開口部遮音性能			-	-	-	-	-	-	-
2	界壁遮音性能			-	-	-	-	3.0	-	-
3	界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	-	-	-	3.0	-	-
4	界床遮音性能(重量衝撃源)			-	-	-	-	3.0	-	-
1.3	吸音			-	-	-	-	3.0	-	-
2 温熱環境										
2.1	室温制御			-	-	-	-	-	-	-
1	室温			3.0	-	-	-	3.0	-	-
2	外皮性能			3.0	-	-	-	3.0	-	-
3	ゾーン別制御性			3.0	-	-	-	-	-	-
2.2	湿度制御			3.0	-	-	-	3.0	-	-
2.3	空調方式			3.0	-	-	-	3.0	-	-
3 光・視環境										
3.1	屋光利用			-	-	-	-	-	-	-
1	屋光率			3.0	-	-	-	3.0	-	-
2	方位別開口			-	-	-	-	-	-	-
3	屋光利用設備			3.0	-	-	-	3.0	-	-
3.2	グレア対策			-	-	-	-	-	-	-
1	屋光制御			5.0	-	-	-	3.0	-	-
3.3	照度			3.0	-	-	-	3.0	-	-
3.4	照明制御			3.0	-	-	-	3.0	-	-
4 空気質環境										
4.1	発生源対策			-	-	-	-	-	-	-
1	化学汚染物質			3.0	-	-	-	3.0	-	-
4.2	換気			-	-	-	-	-	-	-
1	換気量			3.0	-	-	-	3.0	-	-
2	自然換気性能			3.0	-	-	-	3.0	-	-
3	取り入れ外気への配慮			3.0	-	-	-	3.0	-	-
4.3	運用管理			-	-	-	-	-	-	-
1	CO ₂ の監視			3.0	-	-	-	-	-	-
2	喫煙の制御			3.0	-	-	-	-	-	-
Q2 サービス性能						0.43				3.3
1 機能性										
1.1	機能性・使いやすさ			-	-	-	-	-	-	-
1	広さ・収納性			3.0	-	-	-	3.0	-	-
2	高度情報通信設備対応			3.0	-	-	-	3.0	-	-
3	バリアフリー計画		独自	3.0	-	-	-	-	-	-
1.2	心理性・快適性			-	-	-	-	-	-	-
1	広さ感・景観 (天井高)			3.0	-	-	-	3.0	-	-
2	リフレッシュスペース			3.0	-	-	-	-	-	-
3	内装計画			3.0	-	-	-	-	-	-
1.3	維持管理			-	-	-	-	-	-	-
1	維持管理に配慮した設計			3.0	-	-	-	-	-	-
2	維持管理用機能の確保			-	-	-	-	-	-	-
2 耐用性・信頼性										
2.1	耐震・免震・制震・制振			0.5	2.8	0.52	-	-	-	2.8
1	耐震性(建物のこわれにくさ)			0.4	3.0	0.48	-	-	-	-
2	免震・制震・制振性能			3.0	3.0	0.80	-	-	-	-
2.2	部品・部材の耐用年数			0.3	2.5	0.33	-	-	-	-
1	躯体材料の耐用年数			-	3.0	0.25	-	-	-	-
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔		②	-	3.0	0.25	-	-	-	-
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔			-	3.0	0.10	-	-	-	-
4	空調換気ダクトの更新必要間隔			-	-	-	-	-	-	-
5	空調・給排水配管の更新必要間隔			-	-	0.17	-	-	-	-
6	主要設備機器の更新必要間隔			-	3.0	0.25	-	-	-	-
2.4	信頼性			0.1	3.0	0.19	-	-	-	-
1	空調・換気設備			3.0	3.0	0.33	-	-	-	-
2	給排水・衛生設備			3.0	-	-	-	-	-	-
3	電気設備			3.0	3.0	0.33	-	-	-	-
4	機械・配管支持方法		②	3.0	3.0	0.33	-	-	-	-
5	通信・情報設備			3.0	-	-	-	-	-	-

3 対応性・更新性				0.4	3.9	0.48	-	-	-	3.9
3.1 空間のゆとり				0.3	5.0	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり			-	5.0	0.60		3.0	-	
2	空間の形状・自由さ			3.0	5.0	0.40		3.0	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	4.0	0.31		3.0	-	
3.3 設備の更新性				0.3	3.0	0.38		-	-	
1	空調配管の更新性	②		-	-	-		-	-	
2	給排水管の更新性			3.0	-	-		-	-	
3	電気配線の更新性			3.0	-	-		-	-	
4	通信配線の更新性			3.0	-	-		-	-	
5	設備機器の更新性			3.0	3.0	0.50		-	-	
6	バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.50		-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.57		-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出		独自③			2.0	0.30		-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④			3.0	0.40		-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	3.0	0.30		-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④			3.0	0.50		-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上					3.0	0.50		-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	0.40		-	-	3.7
LR1 エネルギー					-	0.40		-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制				3.0	-	-		-	-	-
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.13		-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.35	3.0	5.0	0.63		-	-	5.0
4 効率的運用				0.2	3.0	0.25		-	-	3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00		-	-	
4.1	モニタリング			3.0	3.0	0.50		-	-	
4.2	運用管理体制			3.0	3.0	0.50		-	-	
集合住宅の評価				-	-	-		-	-	
4.1	モニタリング			-	3.0	-		-	-	
4.2	運用管理体制			-	3.0	-		-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30		-	-	3.1
1 水資源保護				0.1	3.0	0.15		-	-	3.0
1.1 節水				3.0	-	-		-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				1.0	3.0	1.00		-	-	
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67		-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33		-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	2.7	0.63		-	-	2.7
2.1 材料使用量の削減				-	2.0	0.07		-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.25		-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	-	3.0	0.21		-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	-	-	3.0	1.0	0.21		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	-	-		-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自		3.0	4.0	0.25		-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	4.3	0.22		-	-	4.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32		-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	5.0	0.68		-	-	
1	消火剤			-	-	-		-	-	
2	発泡剤(断熱材等)			-	5.0	1.00		-	-	
3	冷媒			3.0	-	-		-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30		-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2 69%	-	4.2	0.33		-	-	4.2
2 地域環境への配慮				0.3	3.5	0.33		-	-	3.5
2.1 大気汚染防止				-	5.0	0.25		-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				-	3.0	0.50		-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.0	0.25		-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25		-	-	
2	汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.25		-	-	
3	交通負荷抑制	独自		-	5.0	0.25		-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制			-	1.0	0.25		-	-	
3 周辺環境への配慮				0.3	3.0	0.33		-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40		-	-	
1	騒音	独自		-	3.0	1.00		-	-	
2	振動	独自		-	-	-		-	-	
3	悪臭			-	-	-		-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40		-	-	
1	風害の抑制			-	3.0	0.70		-	-	
2	砂塵の抑制			-	1.0	-		-	-	
3	日照障害の抑制			-	3.0	0.30		-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	3.0	0.20		-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			-	3.0	0.70		-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30		-	-	

重点項目(配慮項目)	評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策			4.2
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.2	0.10
② 資源の有効活用			3.1
Q2-2	耐震性・信頼性	2.8	0.22
Q2-3	対応性・更新性	3.9	0.21
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19
③ 敷地内の緑化			2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.17
			外構緑化:11%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 周りは田畑が多い地域であり、工場も多い地帯である。 建物は1階建てで圧迫感もなく周囲と調和を図っている。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 対象外。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 階高3.9m以上である。壁長さ比率は0.1である。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 建物は1階建てで圧迫感もなく、外構緑化指数は11.0%であり、周りとの調和を図っている。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 BEI=0.35である。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 躯体と仕上げ材が容易に分別可能となっている。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 ライフサイクルCO2排出率69%である。 駐車スペースあり 出入口は交差点を避けている
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。 特になし